

令和6年度 第4回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月13日（木） 午前9時から午前10時40分まで
- 2 開催場所 東小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 小名木 秀雄、高木 邦子、松下 克幸、今中 秀裕、中川 清子、
中村 将義、杉山 晴康、佐原 寛美、竹山 有希
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 佐藤 拓男（中部協働センター長）
- 6 学 校 大石 泰三（校長）、平野 晶子（教頭）、
舩越 裕康（CS担当教職員）、原 真衣子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 原 真衣子
- 10 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉山委員が務める旨の発言があり、
全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項
（1）学校関係者評価 報告（「いじめ防止基本方針」の取り組みを含む）
（2）来年度の学校運営の基本方針について
（3）学校運営協議会の自己評価
学校運営協議会の取り組みについての振り返り
（4）夢育やらまいかCS加算分の報告
- 12 会議記録
司会のCS担当教職員から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、
会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価 報告（「いじめ防止基本方針」の取り組みを含む）

- 議長の指示により、CS担当教職員から別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。
 - 子供だけに目を向けるのではなく、大人に目を向けていくことが必要だと感じる。（松下委員）
 - 新1年生の壁とはどんなものがあるのか知りたい。（高木委員）
 - 親と離れられない、給食が食べられない、午後の授業が眠くなるなどが挙げられる。（CS担当教職員）
 - 放課後児童会で子供をみていると、親と離れられない子供が以前と比べてとても増えているように思う。「育てる」という役割を学校に任せてしまっているように感じる時が

ある。(中川委員)

- 親離れ子離れできていないところがあるのではないかと。(杉山委員)
- 新1年生の5時間授業の開始を6月からにしても、先延ばしになるだけで状況は同じなのではないかと。(高木委員)
- 今の子供の成長は、自分たちが子供の頃とは随分違うように思う。親が手をかけている家庭とそうではない家庭で乖離があるのではないかと。大人でも、5月の連休後に会社に行けない人がいる。新1年生が少しずつ環境に順応できるように、新しいことを試みるのは良いのではないかと。親と子の向き合い方が難しい。(今中委員)
- 晩婚化や一人っ子が多いなどといった現代の問題もあり、親と子の接し方が昔とは違うのではないかと。子供と接する時間が短いことが原因とも感じるし、地域の方など家族以外の人との関りが少ないことも原因とを感じる。コロナなどで閉鎖的な社会になってしまったことも加わって、他者との関りがかなり減ってしまっている。(中村委員)
- 成長して大きくなっても、親としては6年生でもまだ幼い気がする。甘えたいときには甘えさせてあげたいという気持ちもある。(竹山委員)
- 自分の子供には、小学校のときからなんでも自分たちでやれるように育ててきた。でもそれは、そうせざるを得ない状況だったから。それぞれの家庭の環境や状況によって違うのではないかと。(佐原委員)
- 親がどうやって子供との距離をはかっていくのが大事である。独り立ちできない子供ではなく、きちんと自立できる子供になれるように接するべき。(杉山委員)
- 自立できているとはどういうことなのか。(中村委員)
- 親と離れられないということの理由が2つ挙げられる。一つ目は、親が目前にいなくなったら助けてもらえないのではと不安に感じるため。二つ目は、学校が安心できない場所であるためである。学校が安全であると考えられるようにしていけたら良いし、それを保護者に伝える機会があるともっと良い。(高木委員)
- そういった講座を毎年学校で行っているが、共働き世帯も多く平日の日中では参加するのが難しい面がある。(CS担当教職員)
- 「参加できる方はいらしてください」だと仕事を優先してしまうので、もう少し強い表現の方が勤め先にも言いやすいのではないかと。(中村委員)
- 4、5月は学校・学級風土を作る時期である。学校が安全基地だと思えるようにしていくために、新1年生には少し時期に猶予を持たせ、学校は楽しくて行きたい場所だと思えるようにしていきたい。(校長)

■ 議長の指示により、CS担当教職員から別紙資料に基づきいじめ防止基本方針の取り組みについて説明があり、委員からは以下の発言があった。

- いじめ0は難しいが、何かあったときは必ずすぐに対応する。学校で気づくものもあれば、保護者や地域からの声で気づくものもある。3か月経って問題がなければ解消ということになっているが、そのまま終わりにするのではなく中学校などとも連携を図り継続して見守りを行っている。(校長)
- 発達障害の子がいじめの対象になった場合の対応はどのようになっているのか。(中村

委員)

- 発達障害であるかどうかに関わらず、いじめ防止基本方針に則って同じように対応している。東小には発達級がないが、みんな居場所があると感じられる学校にしていきたい。落ち着いて安心して過ごせる学校にすることが、いじめの未然防止につながると考える。

(校長)

- いろいろな人がいるということを、先生だけでなく保護者、子供みんなが感じてほしい。

(杉山委員)

- いじめ防止の取り組みについて伺って、これだけの対応を学校が行っているのはすごいと思うのと同時に、とても大変なのではないかと思う。(高木委員)
- 担任一人が抱え込むのではなく、チームで対応するようにしている。学年主任を軸にたくさん教師がかかわることで、子供が「この先生になら話することができる」という場合があるし、保護者にも同じことがいえる。未然に防止するということが、とても大切であると思う。(教頭)

(2) 来年度の学校運営の基本方針について

- 議長の指示により、校長から別紙資料に基づき来年度の学校運営の基本方針について説明があり、全員意義なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価

- 議長の指示により、教頭から委員の方々よりいただいた声をまとめたうえで共有し、今後の学校運営協議会の活動に活かしていく旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

(4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

- 議長の指示により、教頭から夢育やらまいかCS加算分について説明があり、全員意義なくこれを承認した。

○ 学校支援コーディネーターからの報告

学習ボランティアをお願いした方から、近隣の高齢者施設などにも声をかけてみてはどうかといった声があった。

○ その他

司会から、次回会議は、令和7年5月12日(月)午前9時から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。